

環境省が実施した「第3回自然環境保全基礎調査」、「第4回自然環境保全基礎調査」によると、名護市及び宜野座村において確認された水生生物は、表-3.1.5.27に示すとおり硬骨魚が18種、マキガイが14種の合計32種が確認されています。

また、表-3.1.5.28に示すとおり「名護市天然記念物調査報告、2003年3月、名護市教育委員会」によると、名護市辺野古沿岸域に最も近い辺野古川において水生生物調査が行われており、30種が確認されています。

表-3.1.5.27 名護市及び宜野座村で確認された水生生物

No.	綱名	目名	科名	種数	
1	硬骨魚	コイ	コイ	1	
2			ドジョウ	1	
3		スズキ	カワスズメ	1	
4			ゴクラクギョ	1	
5			ハゼ	10	
6			ボラ	1	
7			ユゴイ	1	
8		ダツ	カダヤシ	1	
9			メダカ	1	
10		マキガイ	原始腹足	アマオブネ	8
11			中腹足	カワニナ	1
12				トウガタカワニナ	1
13			原始有肺	オカミミガイ	4
計	2綱	6目	13科	32種	

資料1：「第3回自然環境保全基礎調査 動物分布調査」環境省 自然環境局 生物多様性センターWebページ

2：「第4回自然環境保全基礎調査 動物分布調査」環境省 自然環境局 生物多様性センターWebページ

表-3.1.5.28 辺野古川で確認された水生生物

No.	綱名	科名	和名	No.	綱名	科名	和名		
1	硬骨魚	ウナギ	ウナギ	17	硬骨魚	ハゼ	テンジクカワアナゴ		
2		ヨウジウオ	テングヨウジ	18			ナガノゴリ		
3		ボラ	イッセンヨウジ	19			ナミハゼ		
4			ボラ	20			スナゴハゼ		
5			セスジボラ	21			ヒナハゼ		
6		コボラ	22	ゴクラクハゼ					
7		ユゴイ	ユゴイ	23			アヤヨシノボリ		
8		アジ	ギンガメアジ	24			ミミズハゼ		
9		ヒイラギ	セイタカヒイラギ	25			ミツボシゴマハゼ		
10		クロサギ	クロサギ	26			ミナミトビハゼ		
11		フエダイ	オキフエダイ	27			フグ	クサフグ	
12			ニセクロホシフエダイ	28			甲殻	オカヤドカリ	オカヤドカリ
13		シマイサキ	コトヒキ	29					ナキオカヤドカリ
14		タイ	ミナミクロダイ	30					ムラサキオカヤドカリ
15		カワスズメ	モザンビークティラピア	合計			2綱	15科	30種
16		アイゴ	ゴマアイゴ						

資料：「名護市天然記念物シリーズ・5 名護市の自然 名護市動植物総合調査報告書」2003年3月、名護市教育委員会

2) 名護市辺野古沿岸域近傍の状況

那覇防衛施設局が平成 9 年に名護市辺野古沿岸域近傍で実施した維管束植物、付着藻類、哺乳類、鳥類、両生類、爬虫類、魚類、底生動物、昆虫類の調査概要は表-3.1.5.29 に示すとおりとなっています。

表-3.1.5.29 陸上動植物の調査概要

調査項目	調査方法	調査期間	調査地点
維管束植物	踏査及び標本採集による種の確認	平成9年9月2～3日 10月1～4日、7日	図-3.1.5.26に示す範囲
付着藻類	目視及び標本採集による種の確認	平成9年9月4～6日 10月2～3日	
哺乳類	踏査及びトラップによる種の確認	平成9年8月26～27日 10月2～3日	
鳥類	定点観測による目視及び鳴き声などから種の確認	平成9年8月30～31日 10月12～14日	
両生類	踏査による種の確認	平成9年8月26～27日 10月2～3日	
爬虫類			
魚類	タモ網、投網及び見つけ採りによる種の確認	平成9年8月25～26日 10月6～7日	
底生動物 (大型甲殻類)	ランダム採集及び見つけ採りによる種の確認	平成9年8月25～26日 10月6～7日	
昆虫類	見つけ採り、トラップ等による採集及び目視、鳴き声による種の確認	平成9年9月2～5日 10月1～4日	



図-3.1.5.26 動植物調査範囲

- : 代替施設
- : 作業ヤード等
- : 鳥類定点観察地点(基地外)
- : 鳥類定点観察地点(基地内)
- : 維管束植物、付着藻類、哺乳類、両生・爬虫類、魚類、底生動物(大型甲殻類)、昆虫類の調査範囲



資料：「シュワブ沖現地現況調査(その2)報告書」平成9年10月、那覇防衛施設局

- (a) 維管束植物
 a) 植物相及び植生の状況

表-3. 1. 5. 30に示すとおり、維管束植物は、シダ植物14科26種、種子植物82科240種の合計96科266種が確認されています。

また、図-3. 1. 5. 27に示すとおり、調査域で占有面積が大きいのは人工裸地と芝生で、占有率はいずれも約30%で、ついでリュウキュウマツ林が約18%となっています。

表-3. 1. 5. 30 維管束植物の出現種

門	亜門	綱	亜綱
シダ植物 14科22属26種			
種子植物 82科185属240種	裸子植物 2科2属2種		
	被子植物 80科183属238種	双子葉植物 66科137属168種	古生花被区 43科80属104種
			後生花被区 23科57属64種
		単子葉植物 14科46属70種	
全種 96科207属266種			

資料：「シュワブ沖現地現況調査(その2)報告書」平成9年10月、那覇防衛施設局

- b) 特記すべき植物群落及び植物種

絶滅のおそれのある種を示した「レッドデータ」のうち、沖縄県に生育する維管束植物を対象としたものには、日本自然保護協会(1989年)「我が国における保護上重要な植物種の現状」(日本自然保護協会版レッドデータブック)、環境庁(2000年)「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—植物 I(維管束植物)—」(以後、環境省版 RDB と略)、沖縄県(2006年)「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物(菌類・植物編)—レッドデータおきなわ—」(以後、沖縄県版 RDB と略)、の3つが公表されています。このうち本調査で確認された貴重種としては、表-3. 1. 5. 31 に示すとおり「天然記念物」及び「環境省版 RDB」と「沖縄県版 RDB」の掲載種としました。それによるとマツバラン等 13 種が確認されています。

表-3. 1. 5. 31 特記すべき維管束植物

種	天然記念物	環境省版RDB	沖縄県版RDB
マツバラシ		VU	
ハンゲショウ			NT
テンノウメ		VU	VU
シマカナメモチ		VU	
ハリツルマサキ		VU	
ミズガンピ			NT
ウコンイソマツ		VU	EN
オキナワギク		VU	VU
モクビャクコウ		VU	VU
オキナワヒメナキリ		NT	NT
タマハリイ			NT
ヤリテンツキ		VU	
ヒメヤブラン			EN

注1：環境省版RDB「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—植物I（維管束植物）—」2000年、環境庁
 VU→絶滅危惧II類（絶滅の危険が増大している種—現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧I類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。）

NT→準絶滅危惧（現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧I類」に移行する可能性のある種）

注2：沖縄県版RDB「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物（菌類・植物編）—レッドデータおきなわ—」2006年2月、沖縄県
 EN→絶滅危惧IB類（沖縄県では絶滅の危機に瀕している種—沖縄県ではIA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。）

VU→絶滅危惧II類（沖縄県では絶滅の危機が増大している種—沖縄県では、現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧I類」のランクに移行することが考えられる。）

NT→絶滅危惧（沖縄県では存続基盤が脆弱な種—現時点での絶滅危険度は小さいが、生育・生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。）

資料：「シュワブ沖現地現況調査(その2)報告書」平成9年10月、那覇防衛施設局

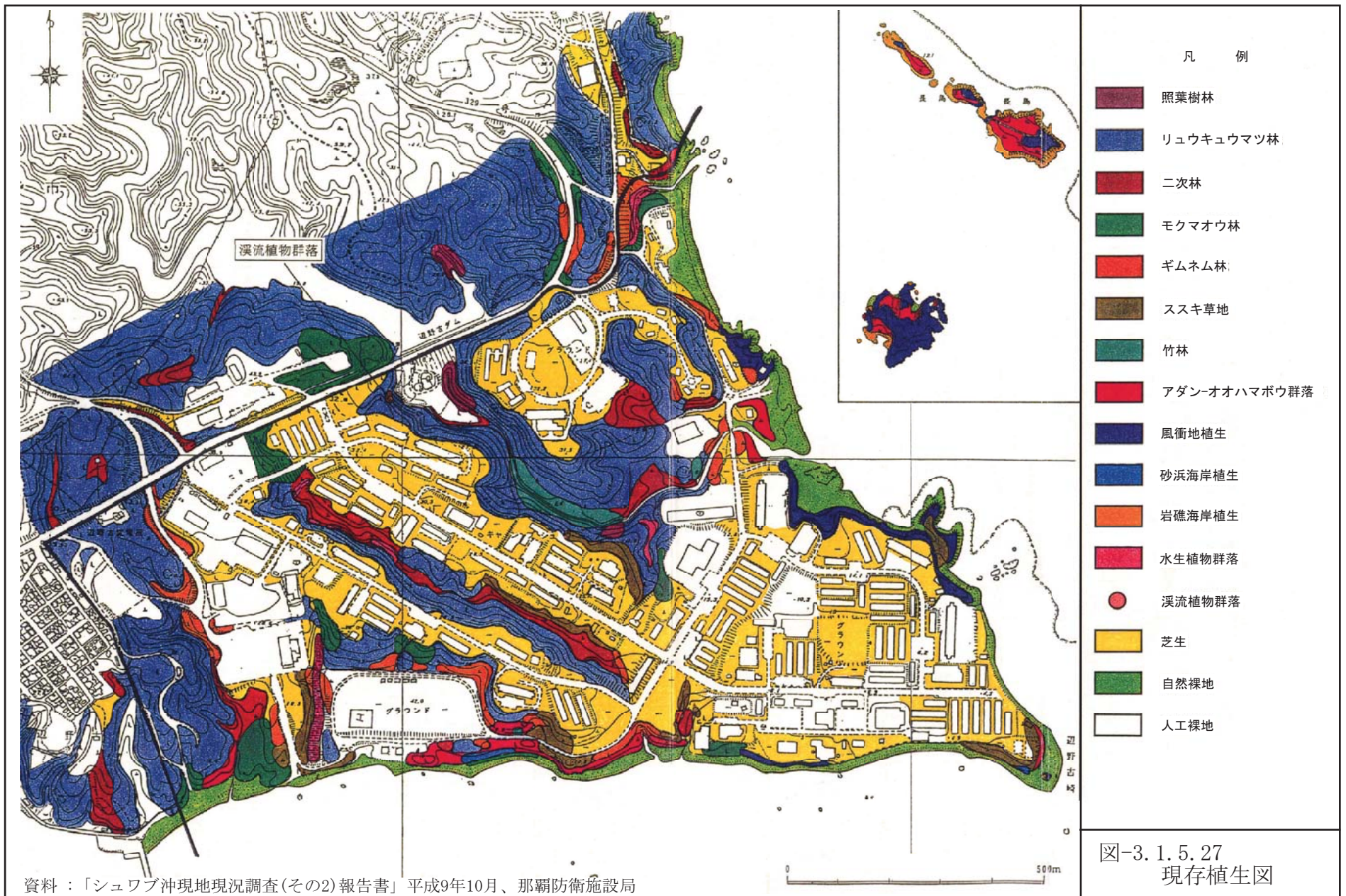
(b) 付着藻類

表-3. 1. 5. 32に示すとおり、紅藻綱ウミゾウメン目2種、緑藻綱シオグサ目3種、ホシミドロ目1種の計2綱3目3科6種が確認されています。なお、特記すべき付着藻類は調査地域では確認されていません。

表-3. 1. 5. 32 付着藻類の出現状況

綱	目	科	種
紅藻	ウミゾウメン	—	ウミゾウメン目の一種 (チスジノリ科のチャントランシア期の藻体あるいはオオジュイネラ属の一種)
			紅藻類
緑藻	シオグサ	シオグサ	シオグサ属の一種
			ネダシグサ属の数種
			アオミソウ属の一種
	ホシミドロ	ホシミドロ	アオミドロ属の一種

資料：「シュワブ沖現地現況調査(その2)報告書」平成9年10月、那覇防衛施設局



(c) 哺乳類

表-3.1.5.33に示すとおり、モグラ目1種、コウモリ目1種、ネズミ目2種の計3目3科4種が確認されています。

なお、表-3.1.5.34に示すとおり、特記すべき哺乳類として、リュウキュウジャコウネズミ、オレイオオコウモリ、オキナワハツカネズミの3種が確認されています。

表-3.1.5.33 哺乳類の出現状況

綱	目	科	種
哺乳類	モグラ	トガリネズミ	リュウキュウジャコウネズミ
	コウモリ	オオコウモリ	オレイオオコウモリ
	ネズミ	ネズミ	オキナワハツカネズミ
			クマネズミ

資料：「シュワブ沖現地現況調査(その2)報告書」平成9年10月、那覇防衛施設局

表-3.1.5.34 特記すべき哺乳類

種	天然記念物	環境省版RDB	沖縄県版RDB
リュウキュウジャコウネズミ			DD
オレイオオコウモリ			NT
オキナワハツカネズミ			DD

注1：環境省版RDB「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—哺乳類—」2000年、環境省

注2：沖縄県版RDB「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物(動物編)—レッドデータおきなわ—」2005年3月、沖縄県

NT→準絶滅危惧(沖縄県では存続基盤が脆弱な種—現時点での絶滅危険度は小さいが、生育・生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。)

DD→情報不足(沖縄県では評価するだけの情報が不足している種—環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧の категорияに移行し得る属性を有しているが、生育・生息状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られていない種。)

資料：「シュワブ沖現地現況調査(その2)報告書」平成9年10月、那覇防衛施設局

(d) 鳥類

表-3.1.5.35に示すとおり、カイツブリ目1種、コウノトリ目7種、ワシタカ目6種、ツル目2種、チドリ目14種、ハト目3種、フクロウ目2種、ブッポウソウ目3種、キツキ目1種、スズメ目17種の計10目22科56種が確認されています。

なお、表-3.1.5.36に示すとおり、特記すべき鳥類として、カラスバトなど17種の生息が確認されています。

表-3. 1. 5. 35 鳥類の出現種

綱	目	科	種	綱	目	科	種	
鳥類	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	鳥類	チドリ	カモメ	ベニアジサシ エリグロアジサシ	
	コウノトリ	サギ	ゴイサギ		ハト	ハト	カラスバト	
			アマサギ				キジバト	
			ダイサギ				ズアカアオバト	
			チュウサギ				リュウキュウコノハズク	
			コサギ				アオバズク	
			クロサギ				ヤマシヨウビン	
			アオサギ				アカシヨウビン	
	ワシタカ	ワシタカ	ミサゴ		ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	
			リュウキュウツミ					
		サシバ	キツツキ				キツツキ	コゲラ
		ハヤブサ				ツバメ	ツバメ	
		チゴハヤブサ				リュウキュウツバメ		
	ツル	クイナ	シロハラクイナ		セキレイ	キセキレイ		
			バン			ハクセキレイ		
	チドリ	チドリ	オオメダイチドリ		スズメ	ヒヨドリ	サンシヨウクイ	リュウキュウサンシヨウクイ
			ムナグロ				シロガシラ	
			ダイゼン				ヒヨドリ	
		キョウジョシギ	イソヒヨドリ					
		トウネン	ウグイス					
		タカブシギ	セッカ					
		キアシシギ	エゾビタキ					
		イソシギ	サンコウチョウ					
		ソリハシシギ	シジュウカラ			ヤマガラ		
		ダイシャクシギ	シジュウカラ					
		チュウシャクシギ	メジロ			メジロ		
		セイタカシギ	セイタカシギ			ハタオリドリ	スズメ	
						カラス	ハシブトガラス	

資料：「シュワブ沖現地現況調査(その2)報告書」平成9年10月、那覇防衛施設局

表-3. 1. 5. 36 特記すべき鳥類

種名	天然記念物	環境省版RDB	沖縄県版RDB
カイツブリ			NT
チュウサギ		NT	NT
ミサゴ		NT	VU
サシバ		VU	
ハヤブサ		VU	VU
セイタカシギ		VU	VU
ベニアジサシ		VU	NT
エリグロアジサシ		NT	NT
カラスバト	国	NT	VU
リュウキュウコノハズク			NT
リュウキュウアオバズク			NT
リュウキュウアカシヨウビン			NT
カワセミ			NT
リュウキュウコゲラ			NT
リュウキュウサンシヨウクイ			NT
リュウキュウサンコウチョウ			DD
アマミヤマガラ			NT

注1：天然記念物「文化財保護法」(昭和25年法律第214号)

国→国指定天然記念物

注2：環境省版RL「鳥類、爬虫類、両生類及びその他無脊椎動物のレッドリストの見直しについて」2006年、環境省
 VU→絶滅危惧II類(絶滅の危険が増大している種→現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧I類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。)

NT→準絶滅危惧(現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種)

注3：沖縄県版RDB「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生動物(動物編)ーレッドデータおきなわー」2005年3月、沖縄県

VU→絶滅危惧II類(沖縄県では絶滅の危機が増大している種→沖縄県では、現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧I類」のランクに移行することが考えられるもの。)

NT→準絶滅危惧(沖縄県では存続基盤が脆弱な種→現時点での絶滅危険度は小さいが、生育・生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。)

DD→情報不足(沖縄県では評価するだけの情報が不足している種→環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性を有しているが、生育・生息状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られていない種。)

資料1：「シュワブ沖現地現況調査(その2)報告書」平成9年10月、那覇防衛施設局

2：「環境省報道発表資料」平成18年12月22日、環境省

(e) 爬虫類・両生類

表-3.1.5.37に示すとおり、爬虫類はトカゲ目ヤモリ科2種、キノボリトカゲ科1種、トカゲ科2種、カナヘビ科1種、ヘビ科1種、両生類ではアカガエル科1種、アオガエル科2種、ジムグリガエル科1種の計2目8科11種が確認されています。

表-3.1.5.38に示すとおり、特記すべき爬虫類として、オキナワキノボリトカゲ、オキナワトカゲの2種が確認されています。

表-3.1.5.37 爬虫類・両生類の出現種

綱	目	科	種
爬虫類	トカゲ	ヤモリ	ミナミヤモリ
			ホオグロヤモリ
		キノボリトカゲ	オキナワキノボリトカゲ
		トカゲ	オキナワトカゲ
		カナヘビ	アオカナヘビ
		ヘビ	アカマタ
両生類	カエル	アカガエル	ヌマガエル
		アオガエル	ニホンカジガエル
			シロアゴガエル
		ジムグリガエル	ヒメアマガエル

資料：「シュワブ沖現地現況調査(その2)報告書」平成9年10月、那覇防衛施設局

表-3.1.5.38 特記すべき爬虫類

種	天然記念物	環境省版RDB	沖縄県版RDB
オキナワキノボリトカゲ		VU	VU
オキナワトカゲ		NT	NT

注1：環境省版RL「鳥類、爬虫類、両生類及びその他無脊椎動物のレッドリストの見直しについて」2006年、環境省
 VU→絶滅危惧II類(絶滅の危険が増大している種－現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧I類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。)

NT→準絶滅危惧(存続基盤が脆弱な種－現時点での絶滅危険度は小さいが、生育・生息条件の変化によっては「絶滅危惧I類」として上位ランクに移行する要素を有するもの。)

注2：沖縄県版RDB「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物(動物編)－レッドデータおきなわー」2005年3月、沖縄県
 VU→絶滅危惧II類(沖縄県では絶滅の危機が増大している種－沖縄県では、現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧I類」のランクに移行することが考えられるもの。)

NT→準絶滅危惧(沖縄県では存続基盤が脆弱な種－現時点での絶滅危険度は小さいが、生育・生息条件の変化によっては「絶滅危惧I類」として上位ランクに移行する要素を有するもの。)

資料1：「シュワブ沖現地現況調査(その2)報告書」平成9年10月、那覇防衛施設局

2：「環境省報道発表資料」平成18年12月22日、環境省

(f) 魚類

表-3.1.5.39に示すとおり、ウナギ科1種、ニシン科1種、メダカ科1種、カダヤシ科1種、ボラ科2種、アジ科1種、クロサギ科2種、シマイサキ科1種、ハゼ科12種、フグ科2種、タウナギ科1種の計7目11科25種が確認されています。

表-3.1.5.40に示すとおり、特記すべき魚類として、メダカ、ルリボウズハゼ、クサフグ、タウナギの4種が確認されています。

表-3.1.5.39 魚類の出現種

綱	目	科	種	
魚類	ウナギ	ウナギ	ウナギ	
	ニシン	ニシン	リュウキュウドロクイ	
	ダツ	メダカ	メダカ	
	カダヤシ	カダヤシ	グッピー	
	スズキ	ボラ	ボラ	ボラ
			コボラ	コボラ
		アジ	ロウニンアジ	
	クロサギ		イトヒキサギ	イトヒキサギ
			ナガサギ	ナガサギ
	シマイサキ		コトヒキ	
	ハゼ		チチブモドキ	チチブモドキ
			テンジクカワアナゴ	テンジクカワアナゴ
			クロミナミハゼ	クロミナミハゼ
			ヒナハゼ	ヒナハゼ
			ゴクラクハゼ	ゴクラクハゼ
			シマヨシノボリ	シマヨシノボリ
			クロヨシノボリ	クロヨシノボリ
			アヤヨシノボリ	アヤヨシノボリ
			ナガノゴリ	ナガノゴリ
			ナンヨウボウズハゼ	ナンヨウボウズハゼ
			ルリボウズハゼ	ルリボウズハゼ
			ミナミトビハゼ	ミナミトビハゼ
	フグ	フグ	クサフグ	
			オキナワフグ	
	タウナギ	タウナギ	タウナギ	

資料：「シュワブ沖現地現況調査(その2)報告書」平成9年10月、那覇防衛施設局

表-3.1.5.40 特記すべき魚類

種	天然記念物	環境省版RDB	沖縄県版RDB
メダカ		VU	CR
ルリボウズハゼ		EN	EN
クサフグ			LP
タウナギ		LP	EN

注1：環境省版RDB「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—汽水・淡水魚類—」2003年、環境省
 EN→絶滅危惧IB類(絶滅の危機に瀕している種—IA類ほどではないが近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの)
 VU→絶滅危惧II類(絶滅の危険が増大している種—現在の状態をもちたしした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧I類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。)
 LP→絶滅のおそれのある地域個体群(地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの)
 注2：沖縄県版RDB「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物(動物編)—レッドデータおきなわ—」2005年3月、沖縄県
 CR→絶滅危惧IA類(沖縄県では絶滅の危機に瀕している種—沖縄県では、ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。)
 EN→絶滅危惧IB類(沖縄県では絶滅の危機に瀕している種—沖縄県ではIA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。)
 LP→絶滅のおそれのある地域個体群(沖縄県で地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれの高いもの。)

資料：「シュワブ沖現地現況調査(その2)報告書」平成9年10月、那覇防衛施設局

(g) 底生動物(大型甲殻類)

表-3.1.5.41に示すとおり、ヌマエビ科3種、テナガエビ科5種、オカヤドカリ科3種、ワタリガニ科1種、イワガニ科8種の計1目5科20種が確認されています。

なお、表-3.1.5.42に示すとおり、特記すべき底生動物として、ナキオカヤドカリ、ムラサキオカヤドカリ、オカヤドカリの3種が確認されています。

表-3.1.5.41 底生動物(大型甲殻類)の出現状況

綱	目	科	種
甲殻類	十脚	ヌマエビ	ミゾレヌマエビ
			トゲナシヌマエビ
			ヒメヌマエビ
		テナガエビ	イッテンコテナガエビ
			ザラテナガエビ
			ヒラテナガエビ
			ミナミテナガエビ
			コンジテンテナガエビ
		オカヤドカリ	ナキオカヤドカリ
			ムラサキオカヤドカリ
			オカヤドカリ
		ワタリガニ	ガザミ sp.
		イワガニ	オオヒライソガニ
			モクズガニ
			クロベンケイガニ
			カクベンケイガニ
			ユビアカベンケイガニ
			ベンケイガニ
			フタバカクガニ
			ミナミアシハラガニ

注：イワガニ科の8種は、現在、「オオヒライソガニ」・「モクズガニ」の2種はモクズガニ科、「クロベンケイガニ」～「ミナミアシハラガニ」の6種はベンケイガニ科に分類されています。

資料：「シュワブ沖現地現況調査(その2)報告書」平成9年10月、那覇防衛施設局

表-3.1.5.42 特記すべき底生動物(大型甲殻類)

種	天然記念物	環境省版RDB	沖縄県版RDB
ナキオカヤドカリ	国		
ムラサキオカヤドカリ	国		
オカヤドカリ	国		

注：天然記念物「文化財保護法」(昭和25年法律第214号)

国→国指定天然記念物

資料：「シュワブ沖現地現況調査(その2)報告書」平成9年10月、那覇防衛施設局

(h) 昆虫類

表-3.1.5.43に示すとおり、12目97科331種を確認しています。

また、表-3.1.5.44に示すとおり、特記すべき昆虫類としてオキナワマツモムシ、イワカワシジミが確認されています。

表-3.1.5.43 昆虫類の出現種

綱	目	科	種数	綱	目	科	種数	綱	目	科	種数	
昆虫類	トンボ	イトトンボ科	4	昆虫類	カメムシ	オサヨコバイ科	1	昆虫類	コウチュウ	ゴミムシダマシ科	10	
		モノサシトンボ科	1			ヨコバイ科	1			カミキリムシ科	7	
		カワトンボ科	1			アメンボ科	1			ハムシ科	6	
		サナエトンボ科	1			マツモムシ科	2			ヒゲナガゾウムシ科	2	
		ヤンマ科	2			サシガメ科	3			ゾウムシ科	3	
		トンボ科	10			ナガカメムシ科	7			ハチ目	アリ科	16
	ゴキブリ	オガサワラゴキブリ科	1			ホシカメムシ科	1				ドロバチ科	1
		チャバネゴキブリ科	4			オオホシカメムシ科	2				スズメバチ科	3
	カマキリ	カマキリ科	2			ホソヘリカメムシ科	4			コシブトハナバチ科	3	
						シロアリ	ミンガシラシロアリ科			1	ヘリカメムシ科	5
	バッタ	コオロギ科	8				マルカメムシ科	1	ミズアブ科	2		
		クサヒバリ科	4				ツチカメムシ科	2	ムシヒキアブ科	1		
		マツムシ科	1				カメムシ科	10	ハナアブ科	1		
		クマズムシ科	1				エビイロカメムシ科	1	クロバエ科	2		
		カネタタキ科	4				ツノカメムシ科	1	チョウ	ハマキガ科	1	
		キリギリス科	4				コウチュウ	ハンミョウ科		1	ハマキモドキガ科	1
		オンブバッタ科	2					オサムシ科		5	イラガ科	1
		バッタ科	11					ゲンゴロウ科		4	マダガ科	1
	ヒシバッタ科	2	ガムシ科					2		メイガ科	16	
	ナナフシ	ナナフシ科	1			ハネカクシ科		3		セセリチョウ科	2	
	ハサミムシ	オオハサミムシ科	1	コケムシ科	1	アゲハチョウ科		7				
		ネッタイハサミムシ科	1	マルハナノミ科	1	シロチョウ科		6				
		クギヌキハサミムシ科	1	コガネムシ科	7	シジミチョウ科		5				
	カメムシ	ウンカ科	1	ヒメドロムシ科	1	マダラチョウ科		13				
		テングスケバ科	2	チビドロムシ科	1	ジャノメチョウ科		2				
		マルウンカ科	1	タマムシ科	1	シヤクガ科	11					
		アオバハゴロモ科	2	ホタル科	1	カレハガ科	1					
		ハゴロモモドキ科	1	ケシキスイ科	3	スズメガ科	2					
		アシブトウンカ科	1	コメツキモドキ科	1	ヒトリガ科	6					
		ハゴロモ科	1	テントウムシ科	6	ヒトリモドキガ科	2					
		セミ科	3	ハナノミ科	1	ヤガ科	30					
		アワフキムシ科	1	アリモドキ科	2							
		ミミズク科	1	チビキカワムシ科	1							

資料：「シュワブ沖現地現況調査(その2)報告書」平成9年10月、那覇防衛施設局

表-3.1.5.44 特記すべき昆虫類

種	天然記念物	環境省版RDB	沖縄県版RDB
オキナワマツモムシ		NT	NT
イワカワシジミ		NT	

注1：環境省版RDB「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック 昆虫類—」2006年8月、環境省
NT→準絶滅危惧(現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。)

注2：沖縄県版RDB「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物(動物編)—レッドデータおきなわ—」2005年3月、沖縄県
NT→準絶滅危惧(沖縄県では存続基盤が脆弱な種—現時点での絶滅危険度は小さいが、生育・生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。)

資料：「シュワブ沖現地現況調査(その2)報告書」平成9年10月、那覇防衛施設局

(3) 生態系

1) 陸域

名護市辺野古沿岸域及びその周辺の陸域部には、内陸部の山地丘陵地から海岸部にかけて多くの河川が流れており、ヤブツバキクラス域自然植生のリュウキュウアオキースダジイ群集が広範囲に分布しています。このように陸域部には、河川等の水系やイタジイ林及びリュウキュウマツ林等から構成される基盤環境を中心とした自然環境が形成されており、そこを生活の場とする生物のうち、猛禽類のツミを食物連鎖の上位とした生態系が形成されています。

2) 海域

名護市辺野古沿岸域及びその周辺の海域は、藻場やサンゴ礁が広く分布し、これらを中心とした環境を生活の場とする魚類やウミガメ、さらには哺乳類のジュゴン等の生息が確認されています。

海岸部はアジサシ類やオカヤドカリ類の生活の場となっており、干潟域にはヒルギ類のマングローブ林の分布やオキナワアナジャコ類が見られるなど、特有の生態系が形成されています。

このように海域では、それぞれの基盤環境を中心とした生態系が形成されています。

3.1.6 景観及び人と自然との触れ合いの活動の状況

(1) 景観

1) 主要な眺望地点の状況

(a) 景観の状況

名護市は山と海に優れた自然景観を有し、ランドマークとなる名護岳・嘉津宇岳・安和岳・多野岳などは沖縄県海岸国定公園や鳥獣保護区、自然環境保全地域などに指定され、緑豊かな山岳景観を形成しています。

宜野座村は白い砂浜と岩場の変化に富んだ海岸線を有しています。陸域は琉球石灰岩にカルスト地形(ドリーネ・鍾乳石・石灰岩堤・天然橋等)がみられ、松田鍋川・慶武原川の河口部にはマングローブ林による亜熱帯的な景観が広がっています。また、潟原には干潟が分布しています。

なお、名護市辺野古沿岸域の近傍は、辺野古岳・久志岳を中心とする山地の裾野にある台地から名護岳・多野岳・辺野古岳・久志岳などを望むことができます。海岸部東側は山地・丘陵地が海岸まで迫る海崖で、南側は白い砂浜と岩場の海岸線となっています。

また、名護市辺野古沿岸域東側に位置する大浦湾に注ぐ大浦川の河口には、マングローブ林が広がり、亜熱帯的な景観を形成しています。

(b) 景観資源の指定状況

名護市辺野古沿岸域周辺は、図-3.1.6.1に示すように「第3回自然環境保全基礎調査(1989)環境庁」の「視対象である自然景観の骨格をなす地形、地質及び自然景観資源として認識される自然現象」を対象とした位置、特性、眺望性、利用の状況等についての調査で、山脈・山地・高地、海蝕崖及び海成段丘がそれぞれ山地景観資源、海岸景観資源に指定されています。

なお、平島、長島は自然景観資源等の指定はされていません。

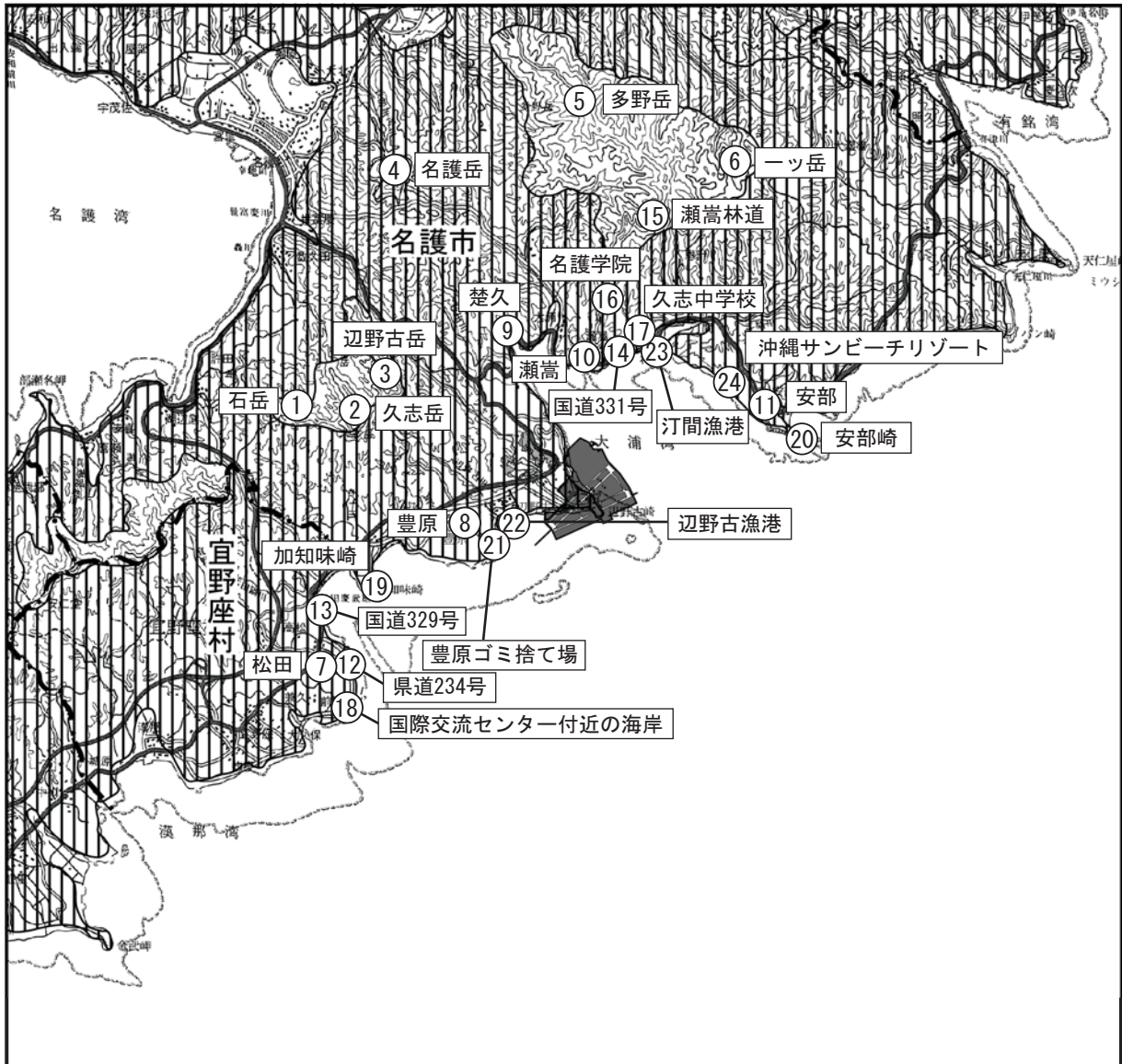





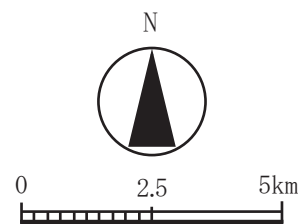
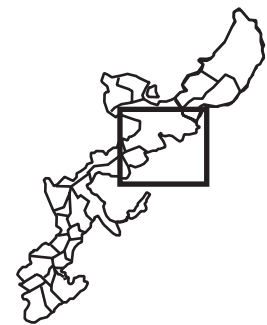


図-3.1.6.1 主要な眺望点及び景観資源

-  : 代替施設
-  : 作業ヤード等
-  : 市町村界
-  : 海成段丘
-  : 主要な眺望点



資料1 : 「第3回自然環境保全基礎調査自然景観資源調査報告書(沖縄県)」
1989年、環境庁
2 : 「シュワブ沖現地現況調査(その2)報告書」平成9年10月、那覇防衛施設局

(2) 人と自然との触れ合いの活動の場

1) 主要な人と自然との触れ合い活動の場の状況

(a) 名護市辺野古沿岸域周辺の状況

名護市辺野古沿岸域周辺地域での主たる人と自然との触れ合いの活動の場は、表-3.1.6.1 及び図-3.1.6.2 に示すとおりです。

表-3.1.6.1 主たる人と自然との触れ合いの活動の場

市町村	区分	施設(名称)
名護市	観光施設	ナゴパラダイス
		ゆかり牧場・観光闘牛場
		森のガラス館
		道の駅「許田」
		ブセナ海中展望塔
		ネオパークオキナワ
	景勝地	名護城跡
	公園	21世紀の森公園
		名護中央公園・展望台
	ゴルフ場	喜瀬カントリークラブ
		カヌチャゴルフコース
		21世紀ゴルフクラブ
	スポーツ施設	名護市B&G海洋センター
		21世紀の森体育館
名護球場		
ビーチ	21世紀の森ビーチ	
	ブセナビーチ	
	カヌチャビーチ	
	喜瀬ビーチ	
	名護市民ビーチ	
文化施設	名護博物館	
宜野座村	観光施設	かんなタラソ沖縄
		宜野座村特産品加工直売センター(未来ぎのざ)
	公園	漢那ダム湖畔公園
	ゴルフ場	宜野座カントリークラブ
	スポーツ施設	宜野座村総合グラウンド
		宜野座村野球場
	ビーチ	漢那ビーチ
文化施設	国際交流村	
	宜野座村立博物館	

資料1：「名護ガイドマップ」名護市観光協会・名護市商工観光課

2：「水と緑と太陽の里ぎのざ」宜野座村役場総務課

3：「美ら島 沖縄県観光情報ファイル 2006年版」2006年10月1日、
(財)沖縄観光コンベンションビューロー

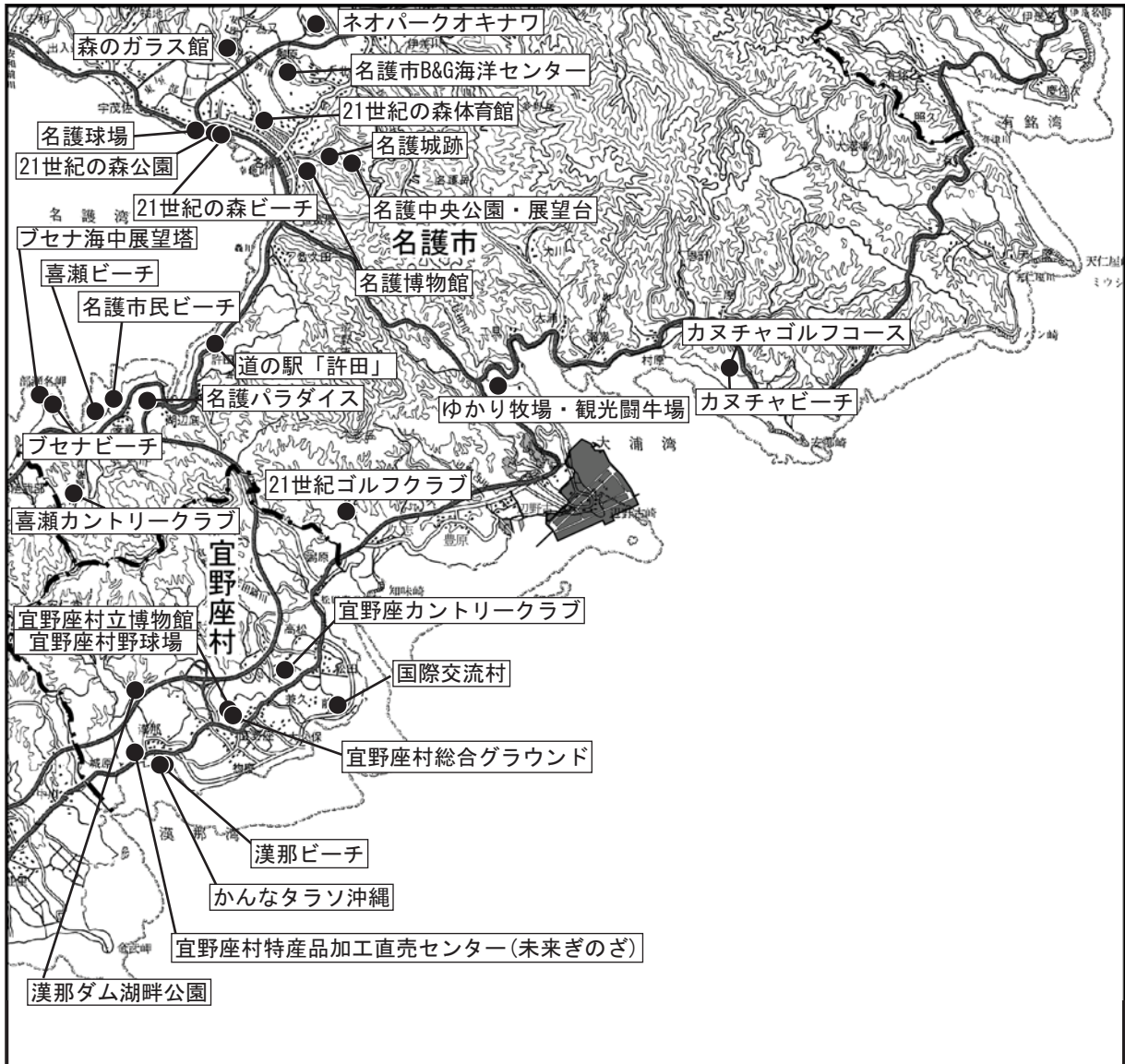
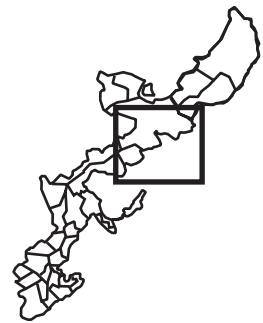


図-3.1.6.2 人と自然との触れ合いの活動の場の状況

- : 代替施設
- : 作業ヤード等
- : 市町村界
- : レクリエーション地



資料1 : 「名護ガイドマップ」名護市観光協会・名護市商工観光課
 2 : 「水と緑と太陽の里ぎのぞ」宜野座村役場総務課
 3 : 「美ら島 沖縄県観光情報ファイル 2006年版」2006年10月1日
 (財)沖縄観光コンベンションビューロー

(b) 名護市辺野古沿岸域近傍の状況

那覇防衛施設局が名護市辺野古沿岸域近傍で実施した人と自然との触れ合いの活動の場に関する調査概要は、表-3.1.6.2のとおりです。

表-3.1.6.2 人と自然との触れ合いの活動の場の調査概要

調査項目	調査地点	調査期間
人と自然との触れ合いの活動の場における利用状況	図-3.1.6.3 に示す範囲	夏季調査： 平日 平成9年8月28日(木) 休日 同年8月31日(日) 追加調査(平島及び周辺海域)： 平日 平成9年9月4日(木) 休日 同年9月23日(火) 秋季調査(平島及び周辺海域を含む)： 平日 平成9年10月3日(金) 休日 同年10月5日(日)

調査結果については、夏季の平日はキャンプ・シュワブ地域、瀬嵩地域、汀間地区、休日はキャンプ・シュワブ地域、瀬嵩地区、嘉陽地区の砂浜、海岸線が最も多く利用されています。

また、秋季の平日は安部地区、嘉陽地区の砂浜、汀間地区の海岸線、また休日はキャンプ・シュワブ地区、嘉陽地区の砂浜、それ以外の地区では海岸線が多く利用されています。

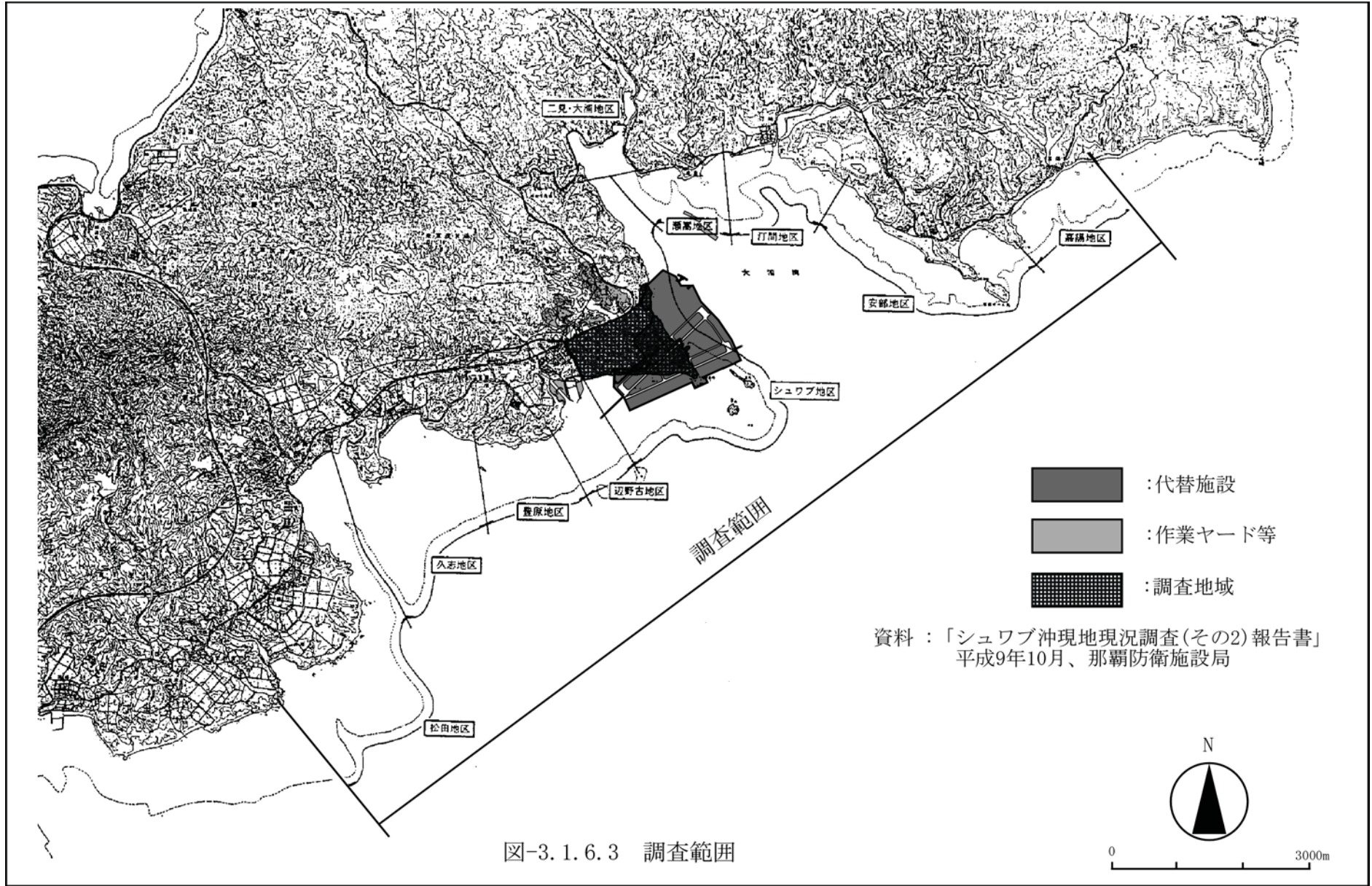


図-3.1.6.3 調査範囲

(3) 御嶽・拝所等の分布状況

表-3.1.6.3 及び図-3.1.6.4 に示すように、名護市辺野古沿岸域周辺には、地域の伝統的な行事及び祭礼等の場として、信仰の対象となっている御嶽や拝所等が分布しています。なお、名護市辺野古沿岸域近傍には、後之嶽、クバ之嶽、子之御嶽及び久志嶽があります。

表-3.1.6.3 御嶽・拝所等一覧





No.	名称	市町村	No.	名称	市町村
1	志竈森御嶽	名護市	④①	中城	名護市
2	宮都屋御嶽	〃	④②	上城	〃
3	山川御嶽	〃	④③	川上之嶽	〃
4	後之御嶽	〃	④④	谷田御嶽	〃
5	唐之船御嶽	〃	④⑤	御願原御嶽	〃
6	北方之御嶽	〃	④⑥	オシキン嶽	〃
7	後之御嶽	〃	④⑦	親川城	〃
8	前之御嶽	〃	④⑧	振慶名嶽	〃
9	網ダーシ	〃	49	伊差川之嶽	〃
10	泊口港口御嶽	〃	⑤⑩	我部祖河之嶽	〃
11	寄揚真業之御嶽	〃	⑤⑪	古我知之嶽	〃
12	カミネ嶽	〃	⑤⑫	呉我之嶽	〃
13	青字山	〃	⑤⑬	饒平名之嶽	〃
14	大和川御嶽	〃	⑤⑭	前嶽	〃
15	竜宮神	〃	⑤⑮	ブリマチ拝所	〃
16	ナングシク(名護城)	〃	⑤⑯	我部之嶽	〃
17	ウィナーナングシク(上名護城)	〃	⑤⑰	済井出	〃
18	銭が森	〃	⑤⑱	屋我御嶽	〃
19	キッチャー	〃	⑤⑲	屋我グシク	〃
20	名護城遙拝所	〃	60	久志嶽	〃
21	護佐喜宮	〃	61	後之嶽	〃
22	前之宮	〃	62	クバ之嶽	〃
23	後之宮	〃	63	子之御嶽	〃
24	拝所	〃	64	大浦之嶽	〃
25	古港拝所	〃	65	瀬高御嶽	〃
26	後之森	〃	66	ウタキグロー(御嶽小)	〃
27	クバ之森	〃	67	ウブウタキ(大御嶽)	〃
28	ユヤギ森	〃	68	上島之御嶽	〃
29	ポーミチャー	〃	69	上城御嶽	〃
30	後之御嶽	〃	70	イリヌウタキ	〃
31	山入端御嶽	〃	71	天仁屋御嶽	〃
32	くばの御嶽	〃	72	漢那の御嶽	宜野座村
③③	部間権現	〃	73	惣慶の御嶽	〃
③④	源河御嶽	〃	74	宜野座又古島遺跡	〃
③⑤	上城御嶽	〃	75	ブルシ御嶽	〃
③⑥	小城御嶽	〃	76	ブルシ御嶽の久高ヌールの祠(墓)	〃
③⑦	真照喜屋御嶽	〃	77	後ヌ御嶽	〃
③⑧	上之御嶽	〃	78	前ヌ御嶽	〃
③⑨	仲尾次御嶽	〃	79	宜野座の御願	〃
④⑩	上城	〃	80	松田の御嶽小	〃

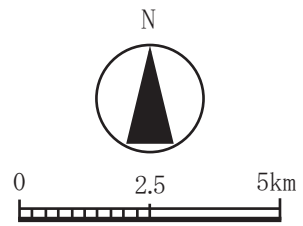
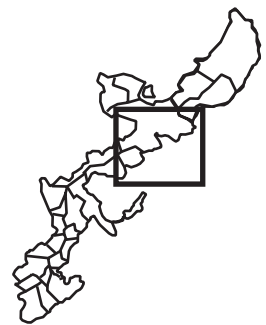
注：表中のNo. で○囲いで表示されたものは図-3.1.6.4の範囲外に位置しています。

資料：「土地保全図付属資料(沖縄県)」国土調査研究会編



図-3.1.6.4 御嶽・拝所等位置

-  : 代替施設
-  : 作業ヤード等
-  : 市町村界
-  No. : 御嶽・拝所



注：図中の番号は表-3.1.6.3に対応しています。
資料：土地保全図(御嶽の分布)平成6年発行 沖縄県

3.2 社会的状況

3.2.1 人口及び産業の状況

(1) 人口

1) 人口及び世帯数

人口及び世帯数は表-3.2.1.1に示すように、名護市、宜野座村ともに増加の傾向が見られます。

表-3.2.1.1 人口及び世帯数

単位：人、世帯

市町村	項目		平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成19年	人口比 (対沖縄県)
名護市	人口	総数	51,181	52,920	56,443	59,229	60,478	4.4%
		男	25,408	26,117	28,136	29,679	30,316	—
		女	25,773	26,803	28,307	29,550	30,162	—
	世帯数		16,038	17,122	19,441	22,860	23,690	4.7%
宜野座村	人口	総数	4,651	4,733	4,791	5,049	5,162	0.4%
		男	2,281	2,359	2,395	2,531	2,554	—
		女	2,370	2,374	2,396	2,518	2,608	—
	世帯数		1,321	1,393	1,615	1,695	1,750	0.3%
沖縄県	人口	総数	1,228,327	1,268,732	1,321,024	1,366,854	1,373,754	100.0%
	世帯数		372,231	407,322	452,190	498,411	508,064	100.0%

資料1：「第34回 沖縄県統計年鑑 平成2年版」平成3年3月、沖縄県統計協会

2：「第39回 沖縄県統計年鑑 平成7年版」平成8年3月、沖縄県統計協会

3：「第44回 沖縄県統計年鑑 平成12年版」平成13年8月、沖縄県統計協会

4：「第49回 沖縄県統計年鑑 平成18年度」平成18年8月、沖縄県統計協会

5：「第51回 沖縄県統計年鑑 平成20年版」平成20年10月、沖縄県統計協会

2) 人口密度

表-3.2.1.2に示すように、平成19年の名護市における人口密度は288人/km²、宜野座村は165人/km²で、沖縄県全体と比較すると名護市は約48%、宜野座村は約27%程度となっています。

表-3.2.1.2 人口密度

単位：人/km²

市町村	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成19年
名護市	244	252	268	282	288
宜野座村	149	151	153	161	165
沖縄県	543	560	582	601	604

資料1：「第34回 沖縄県統計年鑑 平成2年版」平成3年3月、沖縄県統計協会

2：「第39回 沖縄県統計年鑑 平成7年版」平成8年3月、沖縄県統計協会

3：「第44回 沖縄県統計年鑑 平成12年版」平成13年8月、沖縄県統計協会

4：「第49回 沖縄県統計年鑑 平成18年度」平成18年8月、沖縄県統計協会

5：「第51回 沖縄県統計年鑑 平成20年版」平成20年10月、沖縄県統計協会